

町内会と協力 校区美化活動

紫原中

鹿児島市の紫原中学校は、町内会と協力して地域の美化活動を行った。学校と地域の距離を縮めるため文部科学省が推進するコミユニティ・スクール（学校運営協議会制度）の取り組みの一環。生徒と住民は約2時間、ごみ拾いや廃品回収に汗を流した。

12日、全校生徒733人が23グループに分かれて作業。事前に各町内会役員と生徒側が作業内容を打ち合わせ、ごみステーションの整理などに取り組んだ。

紫原7丁目町内会は生徒79人が担当し、住民約60人が手伝った。紫原北公園では側溝のふたを外し、溝にたまった落ち葉や泥をすくい取った。捨てられた家庭ごみの分別もした。段ボー

側溝の落ち葉や泥をすくい取る生徒

鹿児島市の紫原北公園



ルや新聞紙、一升瓶などの廃品も集めた。

2年神野柚葉さんは「普段は地域との関わりがほとんどない。活動でつながりができ、地域にこれまで以上に親しみを感じる」と話した。

（浦牛原健）